

# 県外派遣報告書



一般社団法人  
栃木県バスケットボール協会

様式1

提出日 令和 7年 12月 10日

派遣大会・事業名	令和7年度 第101回天皇杯・第92回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会セカンドラウンド
派遣期間	令和7年11月29日～30日
報告者	武井晋平・倉持雄一
派遣先	茨城県水戸市

## 派遣スケジュール

11月26日	審判会議(オンライン会議 Zoom)
11月29日	男女1回戦
11月30日	男女準決勝・決勝

## 大会参加審判員(本部・指名審判員のみ記載)

本部審判員	平原勇次 梶崇司
指名審判員	田久保藍子 眞榮喜工

## 審判会議 ミーティング内容(共通事項・強調された点など)

### テーマ「S級を目指すための取り組みと覚悟」

#### ○田久保氏

- ・次のライセンスを目指すために、苦手なことに取り組んだり、挑戦したりすることが大切である。
- ・審判を続けられる理由として、家族のサポートや審判を受け入れてくれる周りの環境がある。
- ・支えてくれる家族や職場などの環境に、恩返しの気持ちをもつことや、目標へ挑戦する気持ちが大切である。
- ・審判を行うためには、試合に向けた準備が必要である。
- ・準備として、体力作りや映像の確認、週末のスケジュール管理を続けていくことが大切である。
- ・好きなドラマを見ないで、その時間に映像を見たり、バスの通勤時間帯に1Qだけ見るなど、生活の中で工夫しながら、時間を作っている。

#### ○眞榮喜氏

- ・準備、実践、振り返りが大切である。
- ・準備では、ロスターチェック、スタッツ、これまでの該当チームの映像を確認するなどがある。
- ・実践では、明らかな現象に対する判定を積み重ねることや、試合のために必要であるかどうかを判断し、笛を吹く勇気をもつことが大切である。
- ・振り返りでは、映像を確認し、判定やメカニクス、ゲームコントロールなどの観点からクルーで検証することが大切。
- ・なりたい自分をイメージし、できることやすべきことを考えていくが必要である。

#### ○梶副ブロック長

- ・仕事や家庭がある中、相当の覚悟を持って取り組んでいることを2人の話から感じたのではないかな。
- ・S級になりたい、TLGのコートに立ちたいという目標は今日来ているレベルのA級ならみんな持っている。ただし、皆さんが見ているS級の姿はコートに立っている時のみ。その日その時間だけ行って、審判をしているわけではない。
- ・平日は仕事がある中、週末吹くチームのスカウティングを行ったり、移動も含めれば、試合日の前後も調整が必要であったり、審判を優先した時間確保や調整が必要となる。1日だけ、1週間だけなら無理すれば何とかなるが、シーズンは半年続くので誤魔化しはきかない。
- ・活動環境が整っていないと、S級として求められるゲーム、皆さんが目指しているゲームの割当をコンスタントにもらうことはできない。S級になってから活動の環境を整えることは難しく、コート上での力をつけることと並行して、今から活動環境を整える努力を行ってほしい。

# 県外派遣報告書



一般社団法人  
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 7年 12月 10日

担当試合

試合日	令和7年11月29日(土)
回戦 カード 点数	男子1回戦 プロテリアルブルドッグス(茨城)78ー74ROYALS(群馬)
会場	リリーアリーナMITO
審判員名	CC:堀口拳(埼玉) U1:武井晋平(栃木) U2:大川尚(千葉)
審判員主任名	東祐二(ブロックIR)
試合振り返り	<p>全体を通しては、良いゲームであった。A級としての経験から判定を一番していたと思う。その中で、プラスになることもあれば、それがかえってマイナスになってしまうこともある。例えば、オフェンスファウルについて、まずイリーガルスクリーンに例えれば、本当にイリーガルだったのかを検証してほしい。コンタクトの度合いやプレイヤーの体格から考えれば、当然起きるコンタクトではないか。また、オフェンスチャージングについてもコールしたが、ディフェンスが倒れすぎでは無いか。メッセージを伝える上で、そこでフェイクを入れておくことが重要である。ベテランとして経験値はあるが、今度は一つ一つの判定に深みを持ってほしい。</p>

担当試合

試合日	令和7年11月30日(日)
回戦 カード 点数	女子準決勝 共栄大学(埼玉)93ー92筑波大学(茨城)
会場	リリーアリーナMITO
審判員名	CC:武井晋平(栃木) U1:野口祐子(千葉) U2:畔上愛怜(東京)
審判員主任名	梶崇司(本部)
試合振り返り	<p>終始競り合いのゲームであった。特に後半は、自分の目の前で起きていることをクルー一人一人が判定していたと思う。特に前半は、振り返りが必要であり、ポストでのディフェンスのつき方は、丁寧に見てほしい。ディフェンスの距離が近いので、ゲームの序盤からディフェンスを離れてしっかり守るようメッセージとしてファウルコールが必要。2Qがファウルが0であったが、ゲームがスムーズに流れている中でも、判定をすべきものがあつたのではないかと。リバウンドのコンタクト、ドライブに行つてコンタクトを起こされて倒れているもの。CCとしてゲームコントロールで、何を判定していくか。いくつか遠くから笛を入れに行っているケースもあるが、吹くべきもの、吹いたほうが良いものの吟味が必要である。</p>

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

<p>今回の天皇杯・皇后杯のセカンドラウンドは、今年から以前の方式に戻った開催方法となり、関東のA級以上で運営される大会です。今回、このような機会を頂けたことに感謝を申し上げます。関東各都県から勝ち抜いてきた1チームによるトーナメント方式で行われ、SB1のチームや学生、社会人クラブチームなど様々なカテゴリーのチームが集まる大会ということもあり、普段の関東大会とは違う雰囲気でした。トーナメント1発勝負であるため、どの試合も熱い戦いでした。私自身も、そういった雰囲気の中で、気を抜くことなく、目の前の判定を丁寧にしていきたいと試合に臨みました。日頃から自分が実践してきていることを、コートで発揮できるよう決断していきました。1日目の男子の試合では、実業団とクラブチームの対戦で、メッセージとしてどう伝えていくかの反省を頂き、フェイクの示し方など大変勉強になりました。2日目には、女子準決勝のCCの割当てを頂き、CCとしてのゲームコントロールについてを学ぶことができ、非常に勉強になりました。</p> <p>審判会議を含め大変中身の濃い大会となりました。期間中、準備の段階から茨城県の皆様には大変お世話になり、心からお礼を申し上げますと共に、派遣にあたり、梶審判長には、心から感謝を申し上げご報告いたします。</p>
---

# 県外派遣報告書



一般社団法人  
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 7年 12月 10日

## 担当試合

試合日	令和7年11月29日(土)
回戦 カード 点数	男子1回戦 14:00開始 神奈川大学(神奈川)48—67山梨学院大学(山梨)
会場	リリーアリーナMITO
審判員名	CC:眞榮喜工(埼玉) U1:目崎一将(東京) U2:倉持雄一(栃木)
審判員主任名	一色渉(茨城)
試合振り返り	

大学生のタフでフィジカルティある試合展開の中で、自分のエリアで起こっている現象に対し、判定し続けることができた。しかし、判定の精度としては、ディフェンスの責任やオフェンスへの影響まで見極めてからの判定が不十分であったと振り返りをした。プレーの始まりから終わりまで確認し、判定をすることが必要であると反省した。

メカニクスでは、一つ一つのプレーに対するポジション取りやアングル確保が不足していた。ショットに対し、プレーの予測をした動きができず、覗き込むようなアングルとポジションになってしまう場面が多々あった。プレーの予測と理解が必要であると反省し、日頃の審判活動で取り組みたいと考えた。

## 担当試合

試合日	令和7年11月30日(日)
回戦 カード 点数	男子②準決勝 12:00開始 プロテリアルブルドッグス(茨城)53—77大東文化大学(埼玉)
会場	リリーアリーナMITO
審判員名	CC:眞榮喜工(埼玉) U1:大川尚(千葉) U2:倉持雄一(栃木)
審判員主任名	東祐二(ブロックIR)
試合振り返り	

序盤から点差が離れての試合展開となった。判定について、前半は自分のエリアで起きている現象に対し、判定することができなかったと振り返りをした。後半にディフェンスのイリーガルなコンタクトを判定することができた場面もあった。前半からクルーがコールした判定を同じ基準で判定し続けなければならないことを反省した。

ゲームコントロールとして、タイムアウトが終わり、チームがコートに入る時間が掛かってしまうことがあった。クルーが声や笛で呼び掛けをしている中、自分も同じようにできるとよかったと振り返りをした。クルーチーフやアンパイアは関係なく、毅然とした態度で臨まなければならないと反省した。

## 全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

今回、男子1回戦、準決勝を担当させていただきました。大学生同士や大学生と社会人などの試合を担当し、カテゴリーが異なる試合に非常に難しさを体感しました。カテゴリーは異なっても、イリーガルなコンタクトにはしっかりと笛を鳴らし、ファウルを判定することが大切であると振り返りをしました。今大会では、判定の精度を上げることや、プレーに対するポジション取りやアングルの確保、ゲームを進行するためにプレイヤーやベンチにコミュニケーションをすることが課題であったと反省しました。今回で得た反省を、今後の審判活動に活かし、県内審判員にも共有していきたいと思います。

今回の派遣に際し、お世話になった茨城県審判委員会の皆様、開催県の茨城県バスケットボール協会の皆様、派遣していただいた梶審判長をはじめとする県内審判員の皆様に御礼を申し上げて、大会の派遣報告とさせていただきます。ありがとうございました。